

京都市右京区基本計画 (素案)

令和 3 (2021) 年度～令和 7 (2025) 年

令和 3 (2021) 年●月

目 次

■ 計画策定にあたって～区長メッセージ

～プロローグ～

■ わたしたちの「まち」と「暮らし」との関わり

- (1) 「まちを変える」ってどういうこと？
- (2) まちを良くする行動・活動と「お互いさま」
- (3) 幸せなくらしを思い描くこと，行動すること

■ 右京区基本計画ってなんだろう

- (1) 「わたし」が，まちやくらしのことを考え行動するための計画【計画の目的】
- (2) 策定プロセスを大切にしたい計画【計画のつくり方】
- (3) 対話プロセスと重ね合わせた計画【計画の読み方・使い方】

～わたしたちが描く未来と実現のためのアクション～

第1章 まちを「知る」ことから始める

- (1) 身近なくらしを振り返る
- (2) くらしの変化をデータで見る
- (3) 今起こっている大きな潮流の変化に目を向ける
- (4) 生活・くらし目線で整理する

ー（コラム）知ってる？右京区のことー（右京区のまちの特徴，地図，人口等のデータ）

第2章 わたしたちのまちやくらしの未来を描く

第3章 未来の実現に向けたアクションを起こす

- (1) アクションを考える準備
- (2) はじめの一步を踏み出す
- (3) サポートの仕組み

計画策定までの歩みー編集後記

- (1) 編集体制
- (2) 右京かがやきミライ会議
- (3) インタビュー
- (4) 計画編集会議
- (5) 企画編集チーム

各章扉ページ

- ・各章の扉ページに、その章に関連するミライ会議の写真を大きく載せる
- ・ミライ会議参加者や編集会議委員の一言コメントを織り交ぜていく

以下、デザインイメージ

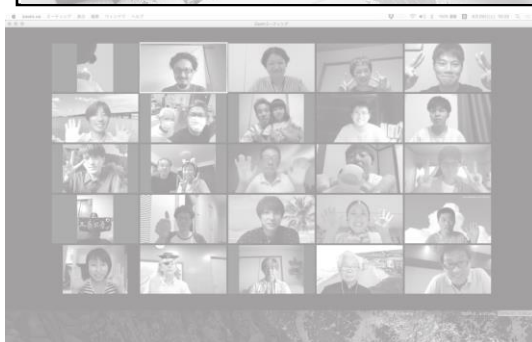
フーティング

第1章

第2章

第3章

編集後記



計画策定にあたって～区長メッセージ

区長メッセージ

2021（令和3）年●月
右京区長 北川洋一

プロローグ

計画策定の目的（役割）と計画の使い方・進め方

基本計画の目的や役割・位置付けを確認するとともに、わたしたちがこの計画をどのように活用していくのかについて、描いていきます。

わたしたちの「まち」と「暮らし」との関わり

(1) 「まちを変える」ってどういうこと？

わたしたちが生まれ育ち、くらしている「まち」。
長い年月の中で、その様子はずいぶん変わってきたのではないのでしょうか。

なぜ、「まち」の様子は変わってきたのでしょうか？

それは、わたしたちの「暮らし」が変わったから。「暮らし」が変わったのは、
「幸せなくらしをしたい」という、一人ひとりの想いや願いがあったから。つまり、
「まち」は勝手に変わったのではなく、わたしたちが変えてきたのです。

「まちを変える」だなんて、何だか遠い話のよう…ってついつい思いがちですが、
「まち」が将来にわたって、わたしたちにとって幸せにくらせる場であるためには、
一人ひとりが「こうありたい」と想い願い続けることが、実は大切な第一歩なんじゃないかと思います。

(2) まちを良くする行動・活動と「お互いさま」

例えば、わたしたちの暮らしに身近な「ごみ」の問題。

ごみを減らすために、行政では、ごみ袋有料化や分別義務化のための条例をつくったり、市民や事業者にごみ減量を広く訴えたりしています。その行政の訴えに応じて、お店では、マイバックやマイボトル持参をお客さんに呼びかけるなどしています。わたしたち一人ひとりは、お気に入りのマイバックやマイボトルを持って、そのお店が提供するものを楽しんでいます。

呼びかける人たちがいて、それに応じる人たちがいる。この両方があってごみを減らすことにつながっています。

また、ある場面では率先して呼びかけ役を担っている人でも、別の場面では呼びかけられたり助けてもらったりする立場になることもありますね。例えば、「みんなでごみ

を減らそう！」と呼びかける活動をされている人も、子育てで困ったときには誰かに助けってもらったり、ケガや病気になったときには誰かに頼る場面があるかもしれません。

まちを良くする活動。ともすれば、わたしたちは、何かを呼びかけたり率先して実行している人たちだけがやっている、やってくれていると考えがちですが、実はわたしたち一人ひとりの行動がすべてここにつながっています。

そして、人の行動はどこかでつながっていて、巡り巡って、その先にある一人ひとりの幸せなくらしの実現につながっています。まちは「お互いさま」で満ちています。

（３）幸せなくらしを思い描くこと、行動すること

大切なのは、わたしにとっての幸せなくらしを思い描くこと。

そして、わたしの周りの人や、その周りの人、そのまた周りの人の幸せなくらしを思い願うこと。わたしたちは一人でくらしているわけじゃないので、これも必要なんじゃないかと思います。

わたしの幸せのために、わたしの行動をちょっと変えてみよう。

そうすれば他の人たちの幸せにもつながるかも。

他の人たちの幸せを願い、わたしの行動をちょっと変えてみよう。

そうすればわたしの幸せにもつながるかも。

わたしたち一人ひとりが想い、願い、そして行動することで、くらしは変わる。まちは変わる。

さあ、一步を踏み出しましょう！

右京区基本計画ってなんだろう

あなたが手にとったこの冊子は、右京区の基本計画です。

最後まで読んでもらえたら、おそらく、自治体の計画と聞いてあなたが思い浮かべるものとは、イメージが違っているかもしれません。

それもそのはず。右京区でくらす一人ひとりが、「わたし」を主語にしながら、まちやくらしのことを考えていけるような計画にするため、描き方やつくり方を今までとは違うものにしましたのです。

どうしてそんな計画にしたのか。一体どんな計画なのか。

この冊子のまとめ役である右京区役所の視点から、計画に込めた想いをお伝えしたいと思います。

(1) 「わたし」が、まちやくらしのことを考え行動するための計画【計画の目的】

これまでの基本計画では、「まち」の将来ビジョンは、そこにくらす人たち「みんな」で実現していくものとして描かれています。

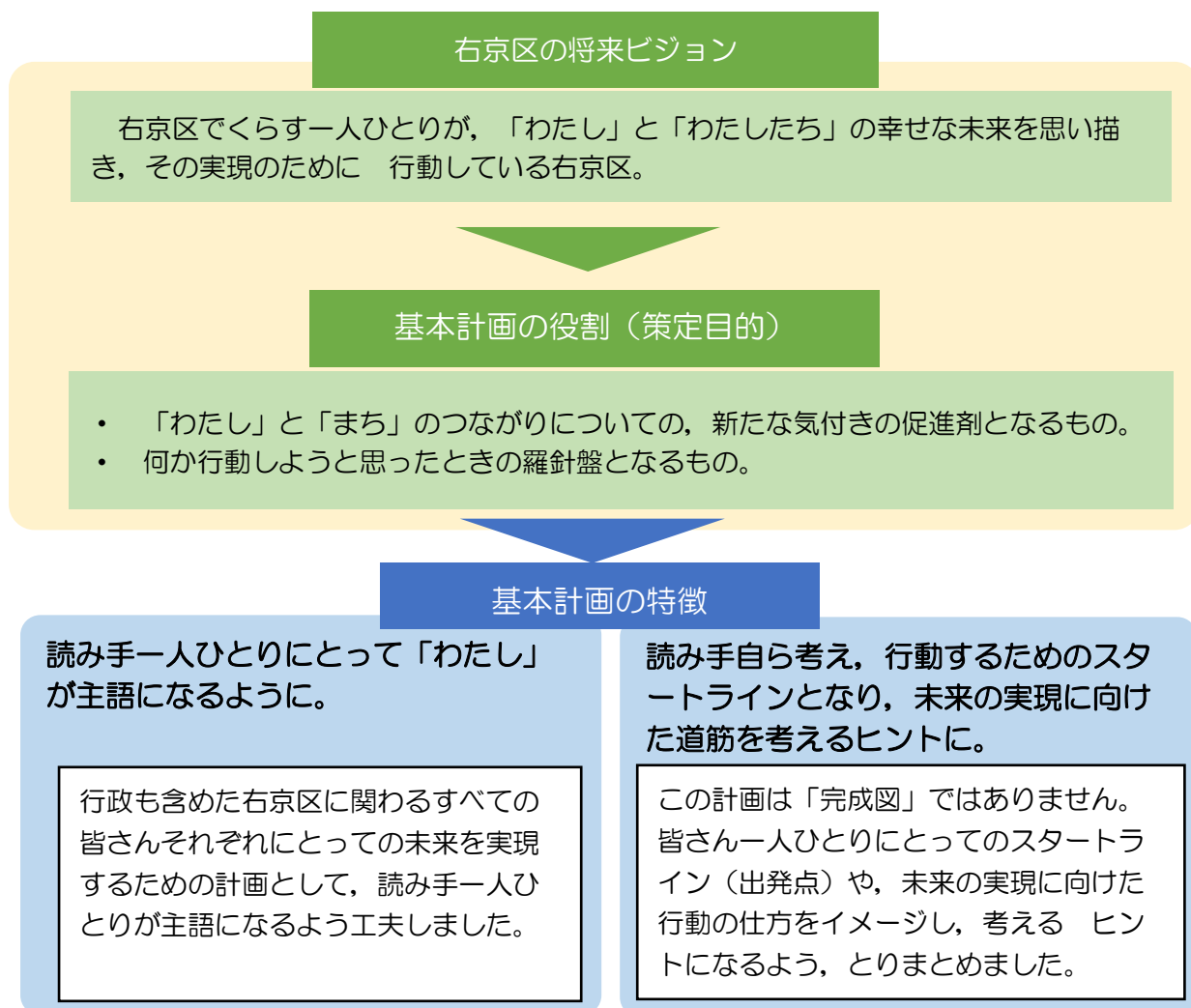
ところが、今回の計画づくりに関わった人たちに「自分の住むまちの総合計画を読んだことがありますか？」と聞いてみると、「読んだことがある」と答えた人は、ごく少数でした。これが現実なのかもしれません。ではなぜそんなことになっているのか？

一方で、基本計画を知っていようと、そうでなかろうと、地域を良くするために活動する人はたくさんいます。では何のために計画をつくるのか、そもそも計画は必要なのか？

そう考えながら改めて気付いたのは、「まち」や「みんな」という表現が、実は「わたし」を置いてけぼりにしているのでは、ということ。大事なのはむしろ「わたし」の方で、右京区でくらす一人ひとりが、自分の幸せな未来を思い描き、行動することで、「まち」は変わっていくのです。

そこで、今回の計画では、目指す具体的な「まちの姿」を描くことはせず、「わたし」を主語に行動する区民の皆さんの姿を将来ビジョンとして掲げることとしました。

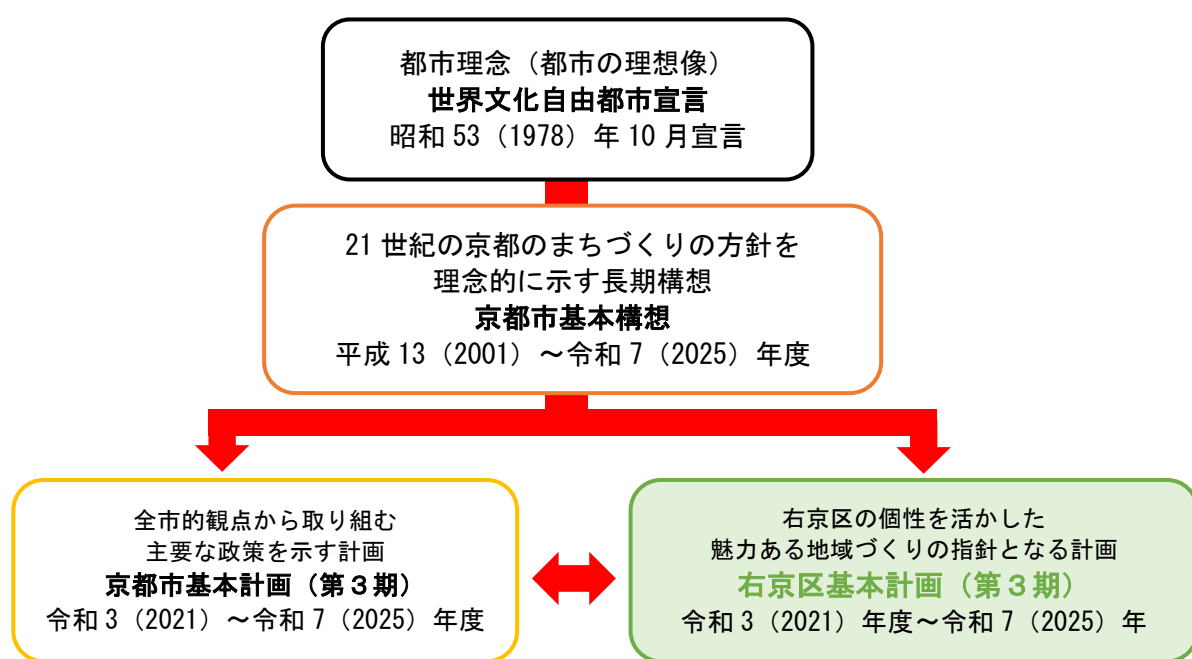
そして、その行動のガイド役になるものとして、この計画をまとめました。



行政計画の中での位置付けは？

右京区基本計画は「わたしたち一人ひとりのための計画」ですが、京都市の行政計画の中では、全市のまちづくりの方針・理念を示す「京都市基本構想」に基づく「地域別」の計画として位置付けられています。

2025 年までを計画期間としている「京都市基本構想」と合わせて、この右京区基本計画の計画期間も【2021 年度から 2025 年までの 5 年間】としています。今後、この計画を通して、区民のみなさんとまちづくりを進め、次の京都市のまちづくりの理念・方針（京都市基本構想）につなげていきたいと考えています。



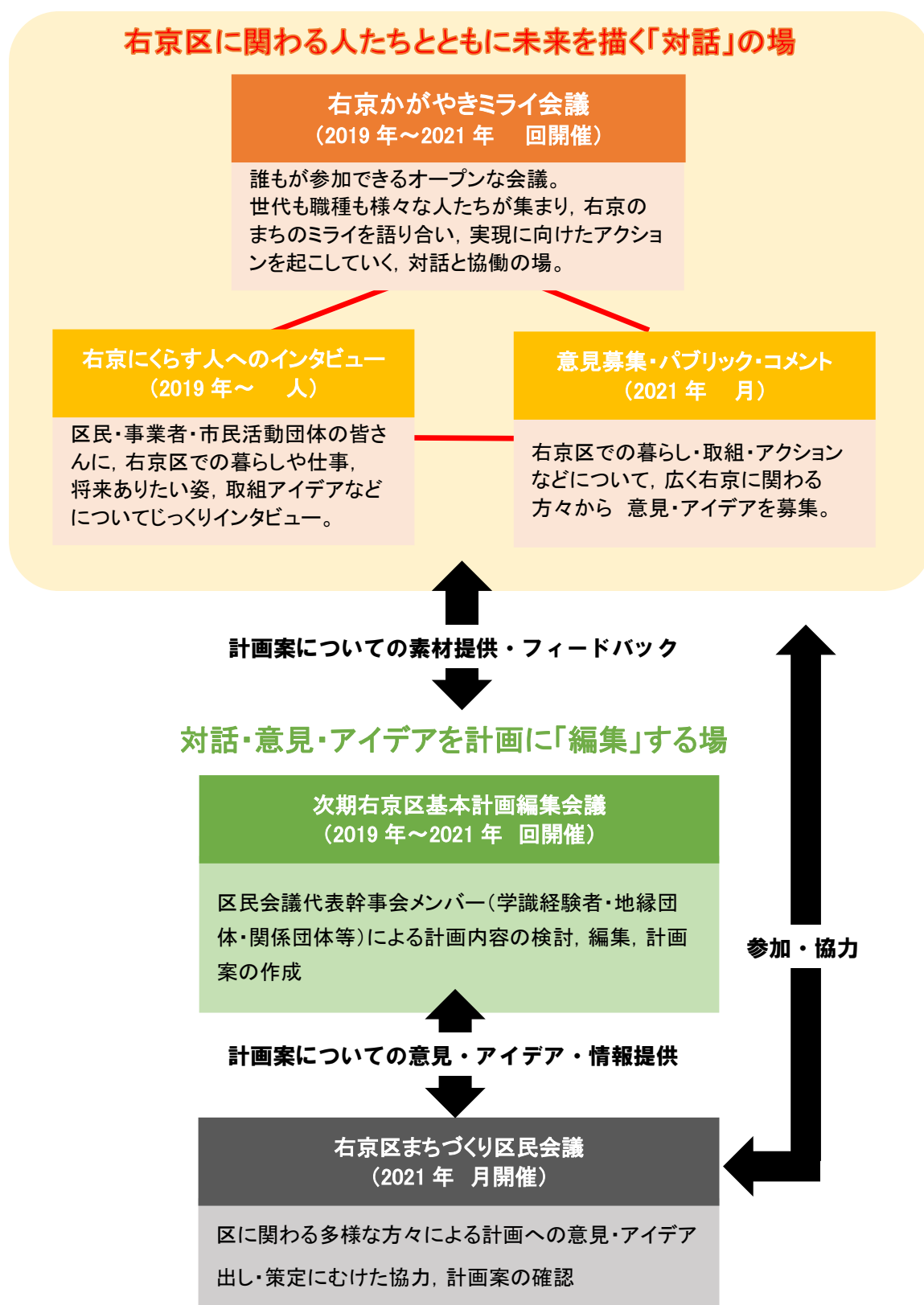
（２）策定プロセスを大切にした計画【計画のつくり方】

新しい右京区の基本計画が、区民の皆さんの実感に寄り添うものになるために、策定プロセスにおいて「できるだけたくさんの人と一緒に未来を思い描く」、そのために「対話する」ことに重点を置きました。

そして、そのプロセスを経て、より多くの区民がこうした行動に取り組むことそのものが右京区の望ましい将来の姿のひとつであるという発見もありました。

右京区で暮らし、働き、学び、あるいは何らかのつながりがある、たくさんの人たちが対話を重ね、一人ひとりのくらしを振り返ったり、実現したい未来を出し合いながら、話し合ってきたことがこの計画には反映されています。

計画策定に向けた対話の場・会議等について



※ それぞれの開催経過や内容は「計画策定までの歩み」(P●)に記載しています。

（３）対話プロセスと重ね合わせた計画【計画の読み方・使い方】

次ページから始まる第１章から第３章では、一人ひとりが実現したい未来を描き、その実現に向けたアクションを起こしていくためには、何を、どのような視点で考えていく必要があるのか、考えるときの方法やポイントなどをまとめています。

この構成は、「右京かがやきミライ会議」（以下「ミライ」会議といいます。）などを通して話し合い、整理してきたプロセスと重ね合わせながら、その過程で出された意見やアイディアなども紹介しています。

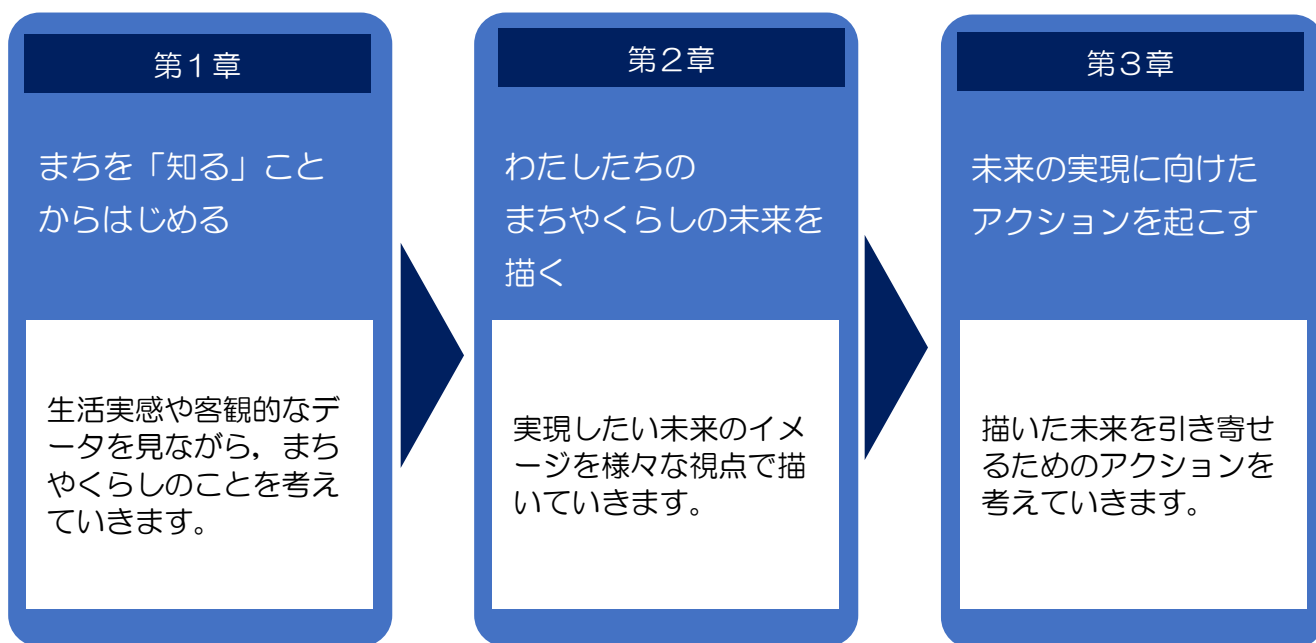
これらを参考にしながら、皆さんも、家族や仲間・地域の人たちと、それぞれの実現したい未来のイメージや、そのために取り組もうと思うことを話し合ってみましょう。



わたしたちが描く未来と実現のためのアクション

第1章～3章では、

ミライ会議や区民インタビューなど、さまざまな場面で話し合ってきた過程の中で考えた、まちとくらしの姿やその実現のためのアクションについて、一連の流れを追いながら、描いていきます。



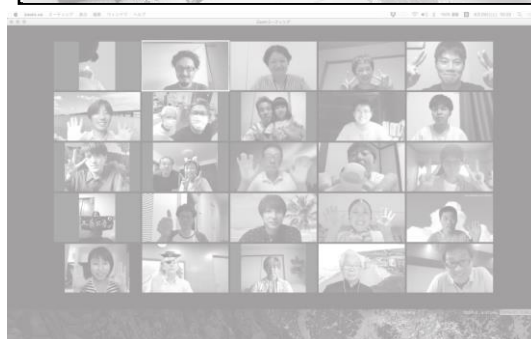
7° 00-グ

第1章

第2章

第3章

編集後記



第1章 まちを「知る」ことから始める

まちを「知る」方法

「こうなったらいいな」「こうありたい」という実現したい未来のイメージを描いたり語ったりする前に、まずは、まちの今とこれまでを「知る」ことから始めていきましょう（ここでは「右京区」を「まち」と表現します）。

まちを「知る」方法は大きく2つあります。

1つ目は、視野を思い切り「わたし」に寄せて、今とこれまでのくらしをどう思っているのかという生活実感を振り返ること。

2つ目は、「わたし」が感じていることは「まち」という単位で見たときにどのように表れてくるのか、客観的なデータで確かめること。

この両方を重ね合わせていくことで、リアルで、かつ裏付けのある、まちやくらしの現状を知ることができます。

(1) 身近なくらしを振り返る

⇒ **主観的なもの**

- ・ 生活の実感（の変化）
- ・ 気になった出来事



(2) くらしの変化をデータで見る

⇒ **客観的なもの**

- ・ 数字として表れる変化

また、そのプロセスの中では、新型コロナウイルスのような、地域や社会に大きな潮流の変化をもたらす出来事にも目を向けていく必要があります。

(3) 今起きている大きな潮流の変化に目を向ける

（今なら）新型コロナウイルスがもたらした、くらしの変化

これらのプロセスの中で出てきた数々の言葉を眺め、つなぎ合わせて、まちやくらしがどう見えているのかを整理してみましょう。自分自身がどんなことに興味・関心や問題意識を持っているのかが見えてくるかもしれません。これが実現したい未来のイメージを思い描く足がかりになります。

(4) 生活・くらし目線で整理する

（計画では）9つの分野に整理

(1) 身近な暮らしを振り返る

【考えるときのポイント】

自分自身の身近な生活の実感を振り返ってみる、このプロセス。

「そんなこといきなり言われても…」という人もいるかもしれませんが、具体的な経験・エピソードを思い返してみると、意外と「そういえば…」というものがいろいろ出てくるかもしれません。

また、住んでいる場所やそこでの暮らし方、価値観は一人ひとり違います。

だからこそ、まちにくらすわたしたちの生活実感といっても、見えている景色も様々です。

自分の経験だけでなく、他の人たちの経験を重ね合わせることで、改めて気付くこと、新たに知ることもあると思います。いろんな人たちと語り合い、様々な視点からまちや暮らしを見ていきましょう。

右京区にくらす一人としてのリアルな実感、あなたにはどんなことが見えてくるでしょうか？

=====

【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議では、この10年を振り返って、身近なところでどんな出来事があったのか、今の暮らしにどんな実感を抱いているのか、お互いにその実感を重ね合わせ、共有しました。

その中で出された、暮らしの中の出来事や生活実感の一部を紹介します。

ミライ会議では、この10年間の印象的な出来事を巨大な年表に貼っていく作業をしました。



目に見えるまちの変化から肌感覚として感じている変化、駅や公園などの公共施設から近所の馴染みの店の变化まで、くらしの中で人それぞれに感じる様々な変化が出されました。

印象的な出来事等

2011(平成23)年～2013(平成25)年頃

2014(平成26)年～2016(平成28)年頃

2017(平成29)年～2019年(平成31・令和元)年頃

京北への道路環境向上
2014：トンネル開通

嵐電・阪急のアクセス改善・リニューアル（例）
2015：阪急西京橋駅前広場整備
2016：嵐電撮影所前駅開業
2017：西院駅改修・改善 等

町家等の跡にコインパーキング増加
カーシェア増加
三幸通運

モビリティマネジメント進展
2014：市バス70系統：黒字化達成

災害での道路通行止め・停電
2017：台風によるR162通行止 等

特に海外からの観光客が増加
観光客向けの店舗や宿泊施設の増加（例）

嵐山等・京北に古
（例）
2013：嵐山駅「キモノ・フォレスト」
（例）

オーバーツーリズム問題、民泊増加
2018：「ファーストキャビン京都嵐山」 等

地域の飲食店がオープン（例）
2013：キネマキッチン、洋食西原
2014：IKEYA 等

地域のお店の変化
コンビニ増設・ドラッグストア増加
2015：京北にコンビニ出店

地域の昔からの商店の閉店や新店・人気店も開店
（ケーキ店・銭湯・牛乳店・スーパー・パン屋等）
スーパー営業時間の短縮

「働き方改革」の進展 働き方への意識がさらに高まる 「ワークライフバランス」への関心がさらに高まる
（例）2012：育児・介護休業法施行

2019：改正労働基準法施行 等

2012：西京極西児童館 開館

2016：梅津フケノ川公園 開園

子どもを支える拠点の増加（例）
2017：西院ふれあい食堂（子ども食堂）開設
放課後等デイサービス増加 等

2015：山ノ内浄水場跡に京都学園大学（現：京都先端科学大学）等ができた
天神川周辺で学生を多く見かけるようになった

まちを楽しむ活動の進展（例）
2011：西院ミュージックフェスティバル10周年
2012：京北サイクリングマップ作成
2013：てくてく太秦マップ完成 等

文化、芸術、アートの活動拠点や団体が充実（例）
2013：ひよっこおどりの会始動
2014：「嵐山昇龍苑」オープン
2015：SANSU芸術の社開始
2016：小劇場「シアターウル」オープン
2018：嵯峨嵐山文華館オープン、
2019：福田美術館オープン、「けいぼく うたと未来コンサート」開催等

右京を舞台とした映画の公開
2014：映画「太秦ライムライト」
2019：「嵐電」

健康まちづくり活動の広がり

サンサ健康広場の広がり、まちづくり支援制度に健康まちづくり活動が増えてきた

様々な防犯活動の進展（例）
2011：「嵐電パトトレイン」
2014頃～学区内防犯カメラの設置・拡大 等

2017：太秦病院開業
2019：民医連中央病院開業

台風・豪雨被害甚大・凶殺増加・防災活動の進展
2013：台風18号被害等

大雨や台風の日に避難所が開設される学区が増えてきた
2018：台風21号で水尾地域長期停電に。電気自動車 で電気配給

まちについて考え、話し合う場の広がり（例）2011：「ジュニア円卓会議」「右京区まちづくり区民会議」開始

2013：「まちづくりキャンパス@右京」開始

2019：「右京かがやきミライ会議」開始 等

交流・連携活動の広がり（例）2011：「太秦太鼓クラブ」結成（現「多世代交流音楽クラブ」）

2014：高雄マウンテンマラソン開始

2015：岩盤竹灯籠開始 等

地域メディアの広がり・充実（例）2012：ローカル紙「右京しかん」創刊

2013：「右京コミュニティTV」開設

2018：右京ファンクラブねっと開設 等

地域の集う・活動する拠点の充実（例）2013：MACHI-KOオープン

2014：キョウノヨリミチ、太秦古心庵オープン

2015：まちづくりコンシェルジュ設置 等

今の暮らしの「良いところ」、「悪いところ」について、
それぞれが思うことを出し合い、共有しました。



また、ミライ会議の参加者以外にも、
右京でくらすいろんな方々にじっくりと想いを
聴くインタビューを実施。



「右京のまちの印象は？」
「くらしの困り事や将来への不安は？」
くらし方によって価値観や生活実感は本当に様々。

多彩な顔を持つ右京区には、豊富な資源があることをみんなで再認識。一方で、くらしにくさや将来
への不安を感じることも。

生活実感

公共交通が充実し便利な生活を送れている。

道路や交通事情がよくないところがある
・歩道が狭く危険（三条通など）
・歩道や駅のバリアフリーが不十分
・北部山間地域へのアクセスが悪い

観光地が賑わう一方で、道路渋滞やバスに
乗れないなどの生活への影響も生じている

食料品、生活用品を調達するスーパーや
ホームセンター等は充実し便利である一方、
昔からあるお店が減ってきた

まちがきれい・おしゃれに 西院・花園

生産地と近く、新鮮食材が身近で手に入る

農林業や伝統工芸もあるが、生計を立てる難
しさ、後継者不足。農地では駄目も。

便利な世の中、ニーズの多様化、インバウ
ンド需要等の社会情勢に合わせ、個人商店
の生き残り戦略が必要

子どもが近所で遊べる場所が少ない

学童や習い事などもあり、外で元気に遊ぶ
子どもの姿をあまり見なくなった

特に区南部で子育て世帯が多い
希望する保育園に入れない人もいる、
病児保育がない

名所、観光地が多い。文化・芸術やアク
ティビティを楽しめる場所がある。

歴史的な文化財・古墳が身近にある。

大学が多く、まちが若くて活気がある。

高齢化、介護を必要とする人の増加

空き家や空き地が増えている

自治会・町内会の加入率低下、担い手不足・
高齢化、地蔵盆の開催が危ぶまれる
高齢者間や新住民との関わりの希薄化
単身高齢者の増、見守り体制の充実が必要

災害への不安感（危機意識の低下懸念も）

多世代のつながり・障がい者への理解が増し
てきたと感じるが、多様性への理解、不寛容
さはこれからの課題

京北地域への距離感（物理的・精神的）を感
じる。広い右京区だからこそ一体感を持ちに
くく、知らない場所も多い。

個人情報保護の徹底による、つながりにく
さを感じる。

(2) くらしの変化をデータで見る

【考えるときのポイント】

生活実感として出てきた、リアルなくらしの姿。でも、これだけで右京のまちのすべてを知ることとは難しそうです。ここにはいない人たちのくらしにも思いを馳せていく必要があります。

それを知る方法のひとつが、「統計データ」を見ることです。

統計データは、過去・現在・（ものによっては未来）をつなぐ大事なツールで、その間の「変化」を見ることができます。

生活実感で出てきた気になるテーマを挙げ、それに関連する統計データを探してみましょう。ズバリそのもののデータが無かったとしても、あるものの中で推測を立てることもできます。

大事なのは、変化の背景にあるものを想像することです。

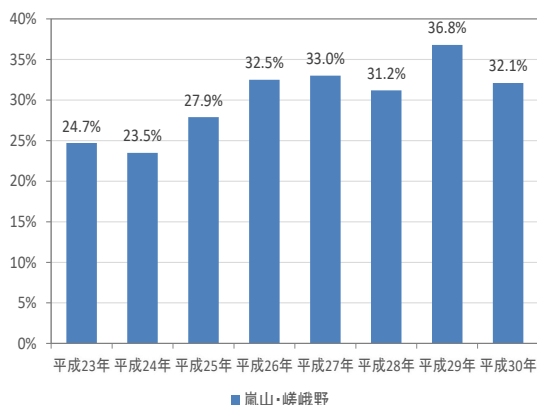
探してきたデータと自分の生活実感（経験）と重ね合わせたときに、あなたにはどんなことが見えてくるでしょうか？

【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議では、生活実感として語り合ってきた身近なくらしの変化について、客観的に示すデータを集めることにしました。ここでは、その中の一部を紹介します。

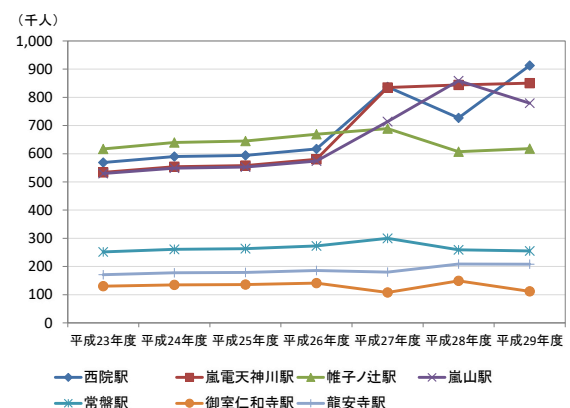
嵐山・嵯峨野を訪れる外国人観光客の割合が上昇、嵐電では他の鉄道との接続駅（西院駅・嵐電天神川駅）と嵐山駅では乗客が増加しており、利便性が向上、観光客が増加していることが分かりました。

京都市を訪れた外国人観光客のうち、右京区内の観光地を訪問した人の割合の推移
(出典：京都観光総合調査)



京福電鉄（嵐電）各駅の乗客数の推移

(出典：京都府統計書・京都市統計書)

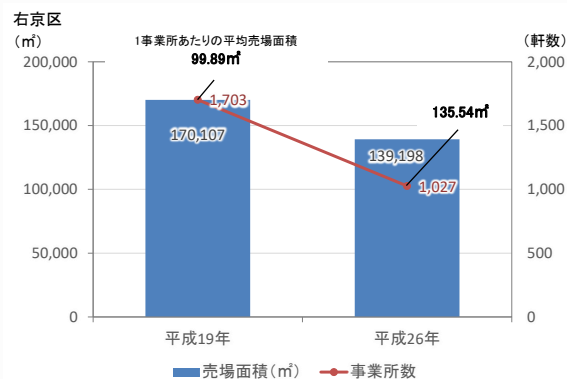


小売業は事業所数が減り、売り場面積も減っていますが、1事業所あたりの面積は広がっているようで、大きな店舗は残り、小さなお店が減っていることが分かりました。

確かに比較的小さな、昔からある地元のお店が減っているのかもしれません。

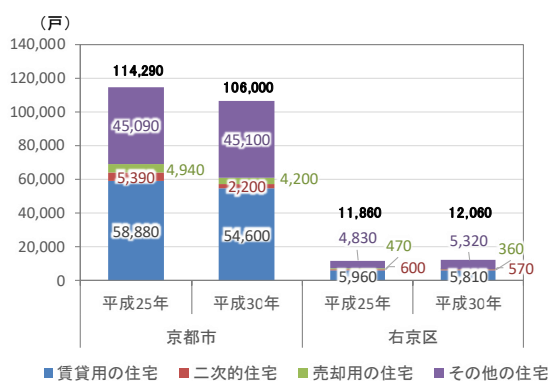
小売業の事業所数・売り場面積の推移

(出典：商業統計調査)



空き家の種類別空き家数の推移

(出典：住宅・土地統計調査)

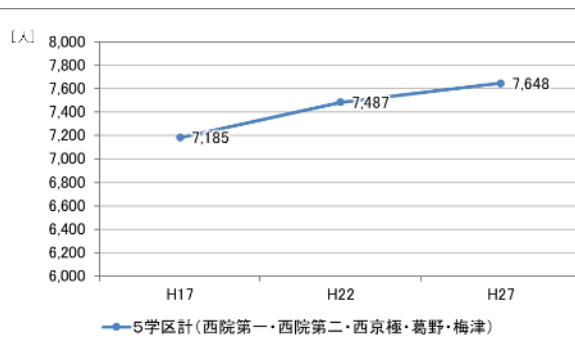


空き家の数は少し増えているだけで、たくさん増えているわけではないことが分かりました。ただ、管理されず問題が起きやすい利用予定のない「その他」の空き家が増加しているため、わたしたちが日々のくらしで気になるような「空き家」が増えているように感じられるのかもしれません。

右京区南部の西院第一・第二・西京極・葛野・梅津では、子どもの数が増えていることが分かりました。

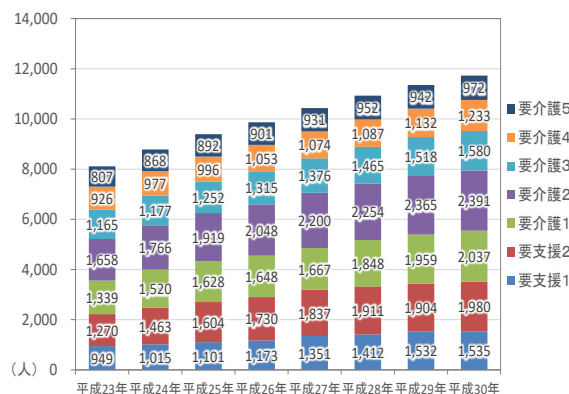
区南部の子ども(0～14歳)の数

(出典：国勢調査)



介護を必要とする人の数

(出典：区政概要)



高齢化が進んでいることもあり、やはり介護を必要とする人は年々増加していることが分かりました。

もっと知るには・・・

右京区の人口(学区別)、くらす人や世帯、訪れる人、働く人、産業、買物、交通 住まい、安心・安全、文化財などのデータを「別冊：客観データ集」に細かく掲載しています。

(3) 今起きている大きな潮流の変化に目を向ける

ミライ会議等で話し合いを進めている最中、新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言により様々な制限・自粛が行われました。この突然で急激な変化は、わたしたちのくらしや地域活動に様々な影響をもたらしたのではないのでしょうか。

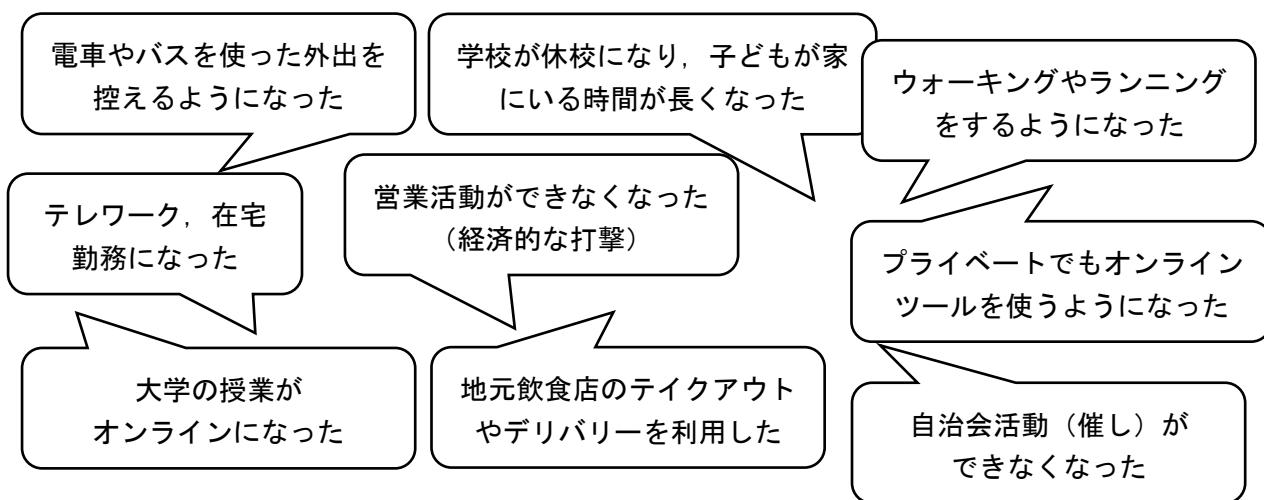
人々の気持ちやくらし方は、時を経るにつれて変わっていくものです。だからこそ、今起きていることに対して、今思うことを言葉にしておくことも大切です。くらしや気持ちの変化、これからのくらしへの影響について、あなたも家族や仲間、職場で話し合ってみましょう。

【ミライ会議等でやってきたこと】

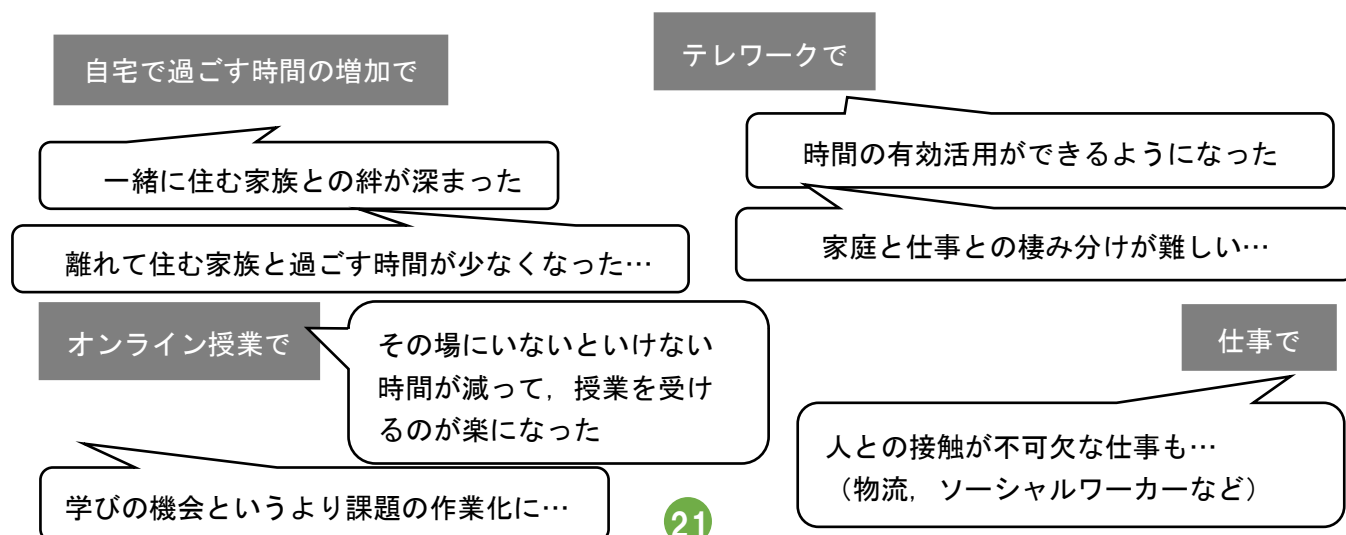
新型コロナウイルス感染拡大による自粛期間中に、オンラインでミライ会議を開催し、コロナ禍で起きているくらしや気持ちの変化について話し合いました。また、右京区役所ホームページ上のアンケートにおいても、「コロナで変わったわたしのくらしと気持ち」について、右京区でくらす人たちから投稿してもらいました。

そこで語り合ってきた、くらしや気持ちの変化の一部を紹介します。

移動する、はたらく、学ぶ、食べる、つながる・・・くらしの中の様々な場面で変化が。



変化に対応することで生じている明暗も・・・



これからの暮らし方の選択肢を広げた

オンラインや非接触でも
「できる」ことが増えた

- ・ 学ぶこと、教えること
- ・ 何かを表現すること、生きるために稼ぐこと
- ・ 何が大事な活動で、何がそうでない活動なのか

今まで当たり前だったものを考えるきっかけになった

改めて自分にとって大切なことを考え、
気づくきっかけに

人と対面で会うこと、話すこと、つながることって
やっぱり大事なんだなと思った

人との価値観の違いが見え、同じ価値観を求めがちな
自分に気づいた。人への思いやりが大事

家族や親しい人との付き合いを大事にしたい

これから大切にしたいこと

価値観の違いや多様性を尊重するとともに、
変化に取り残されそうな人へ寄り添うこと

周りの変化にも、しなやかに対応して
いきたい

自分が大切にしたいことを考え、暮らしの中で
自分なりの正解を見つけ、選択していきたい

(4) 生活・くらし目線で整理する

【考えるときのポイント】

右京区でのくらしは、この10年でどのように変化してきたのか。右京でくらすわたしたちが、どんなことに魅力や課題を感じているのか。

そこから見てくることは、行政の政策分野に切り分けられるものばかりではありません。わたしたちの生活・くらしに近い目線でまとめたほうが、よりリアルにまちのことを考えられます。

【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議などで語り合ってきた生活実感や出来事、コロナ禍での変化や統計データをもとに、まちの現状を、生活・くらし目線で9つの分野に整理し、未来を描いていく下地をつくりました。

①移動する（観光）

交通機関による利便性向上などもあり、移動しやすく利便性も高い右京区ですが、京北地域など地域によってはその移動に不便もあり、またコロナ禍による移動制限や感染予防対策で交通機関での外出がしづらくなり、自宅等周辺を徒歩、マイカーでの移動が多くなった側面もあります。また、観光客が多い季節等は、日常生活の移動に支障が生じている課題もあります。

②食べる・買う

人気店やお洒落なお店が増えてきたエリアもある一方、昔ながらのお店や個人経営のお店、地元資本のお店の閉店も目立つようになってきています。店舗の大型化や営業時間の短縮などの変化も表れています。さらに、コロナ禍による客数減少などを理由に閉店・休業・営業時間短縮するところも出てきていますが、機会を捉え、テイクアウト等で新たなお店との出会いや顧客獲得につながっているところもあります。

③稼ぐ・商う

農林業や伝統産業など、これまで右京区にあった仕事や商いの存続に対する危機感があります。また、消費者ニーズの多様化やコロナ禍による影響等に合わせ、個人商店の生き残りのための戦略が求められています。コロナ禍による影響が大きいところでは、営業ができない、働けないなど、稼ぐことが困難になっている状況も生まれています。

④はたらく

少子高齢化の進展、ライフスタイルの多様化、女性や高齢者の働き方の広がり、一人ひとりのスキルやキャリアに対する意識の高まり、コロナ禍も契機としたテレワークの広がりなど、今までとは違う一人ひとりが輝き、社会に貢献できる「はたらき方」が求められています。

⑤育つ（育てる）

一部地域では人口、子どもが増えているところもあり、子育て環境の充実が求められています。子どもや子育てを支える拠点や活動が広がっていますが、子どもの遊び方や取り巻く環境、コロナ禍の影響による保育・教育のあり方、親の状況や子どもへの関わり方の変化への対応も求められています。

⑥学ぶ・遊ぶ・楽しむ

身近なところに歴史や文化を感じることができる環境があり、最近ではキャンパスが新たにできたことも含め、市民による様々な文化芸術、学びやまちを楽しむ活動の広がりが生まれています。一方で、それらのつながりがまだ弱い、知らないことも多いという声もあり、また、コロナ禍において、学生や市民が学び、楽しむ環境に制限が生じ、その方法に変化が求められています。

⑦健康にくらす

高齢化にともない、介護を必要とする人が増えており、今後さらに増えることが想定されます。健康まちづくりの活動が広がってきたように、今後、市民一人ひとりの健康にくらすためのライフスタイルの実現、感染予防の視点からの新たな生活様式への対応、健康にもつながる地域での活動が求められています。

⑧身を守る・支え合う

頻発する自然災害もあり、防災意識が高まり、地域の自主防災活動が広がっていますが、さらなる充実が求められています。自治会等の地域コミュニティは高齢化や担い手の不足、参加の広がりがなく、活動の停滞などの課題があります。コロナ禍において、集まらなくても支え合い、つながることができる新しい地域活動スタイルが求められています。

⑨つながる・交わる・集う

まちについて考え話し合う場や活動や居場所となる拠点多様に広がってきたことで、住民相互の理解や様々な活動の情報の共有、つながりが生まれています。また、コロナ禍ではつながる・集うことの大切さの再認識し、オンラインをうまく活用する人が多くいる一方で、京北地域などとの地域間での距離感を感じたり、個人情報保護、感染予防などの視点から、個人がつながりにくいという課題もあります。

【コラム】知ってる？右京区のこと

右京区の特徴を大きく捉えるための情報の整理や、
デザインの見せ方は今後検討

右京区は京都市の西部、桂川の東岸に位置し、区域面積は 291.95h を有し、市内で最も大きい行政区となっています。

区域の南部は京都盆地の一角を占める平野部に、また、北部一帯は自然豊かな山間地域となっています。南部の平野部については、四条通以南は道路・公園等の都市基盤が整備されている一方で、四条通以北は、密集した市街地となっています。

ミライ会議やインタビューでは、
生活実感として、次のような右京区の特徴も話されました。

豊かな自然が身近にある。

広いからこそ、一体感を持ちにくく、知らない場所も多い。

交通も買い物も便利なのに
程よく田舎。

賑やかな「まち」と自然豊かな「田舎」の両方の顔がある。
多様な特色ある地域が存在する。

右京区の地図

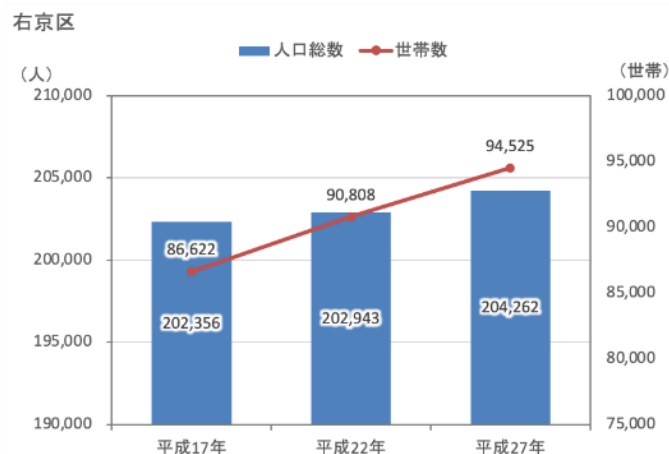
デザイン時に再検討

素案では 右京区全体の一般的な地図と学区や地域名を表示

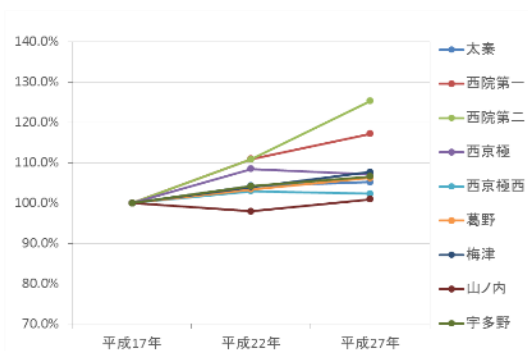
右京区の人口は 20 万人を超える市内●番目の大規模な行政区で、太秦や西院、西京極等の地域が牽引し、人口・世帯とも区全体では増加が続いていますが、特に、北部山間地域では人口減少が進んでいます。

今後、人口は減少に転じると推計されており、少子高齢化がさらに進展する見込みです。

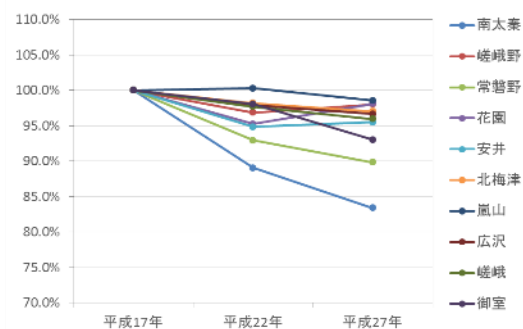
人口・世帯の推移（資料：各年国勢調査）



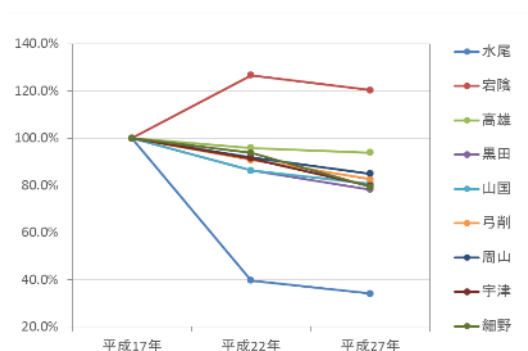
人口増加地域〔学区別〕



人口減少地域〔学区別〕

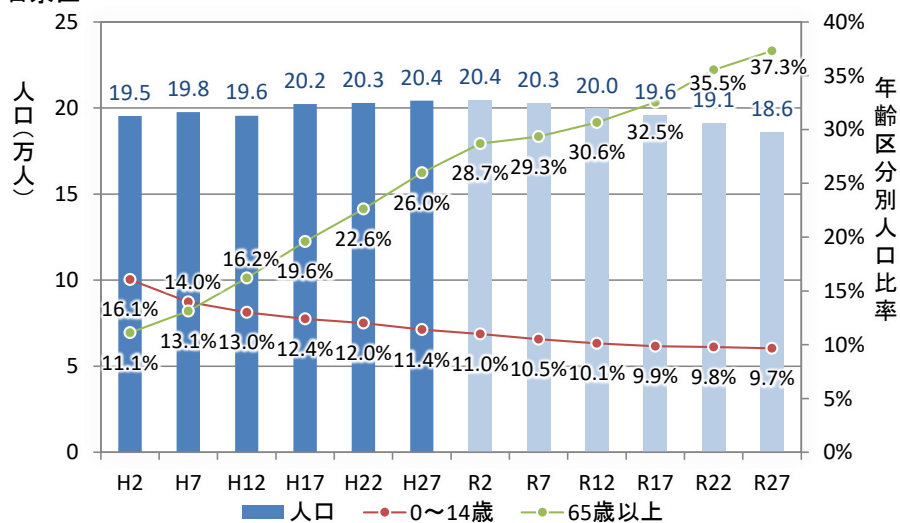


北部山間地域〔学区別〕



人口将来推計（出典：出典：国勢調査，R2 年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計）

右京区



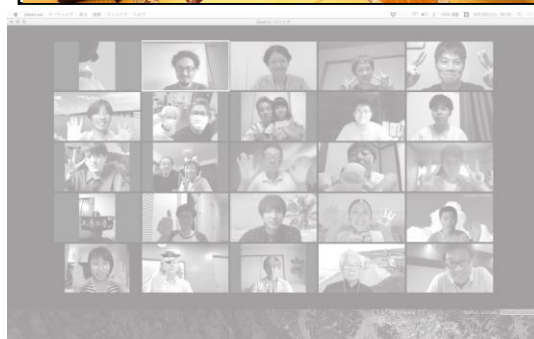
フーログ

第1章

第2章

第3章

編集後記



第2章 わたしたちのまちや暮らしの未来を描く

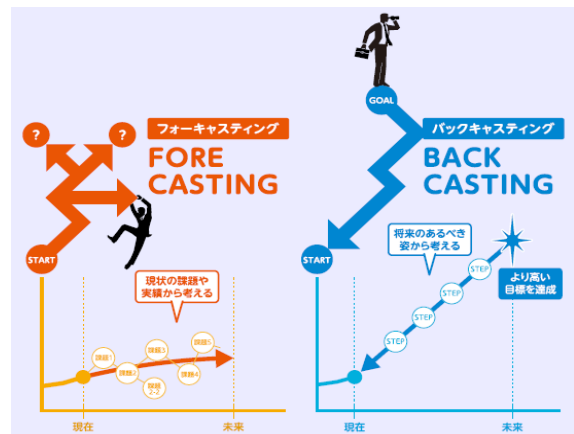
わたしが実現したい未来の描き方

「あなたが実現したい未来を描いてみましょう！」と言われたら、あなたならどうやって考えますか？

未来の描き方の一つには、「今の課題は何だろう？」「乗り越えるには何が必要だろう？」「その先にどんな未来が待っているだろう？」といったように、「今を起点」にする考え方があります。

もう一つは、「未来を起点」にした考え方です。

つまり、今あるものや無いものに捉われず、「こうありたい！」という理想の未来を思い描き、その未来を引き寄せるために今必要なアクションを考える「未来からの逆算」です。

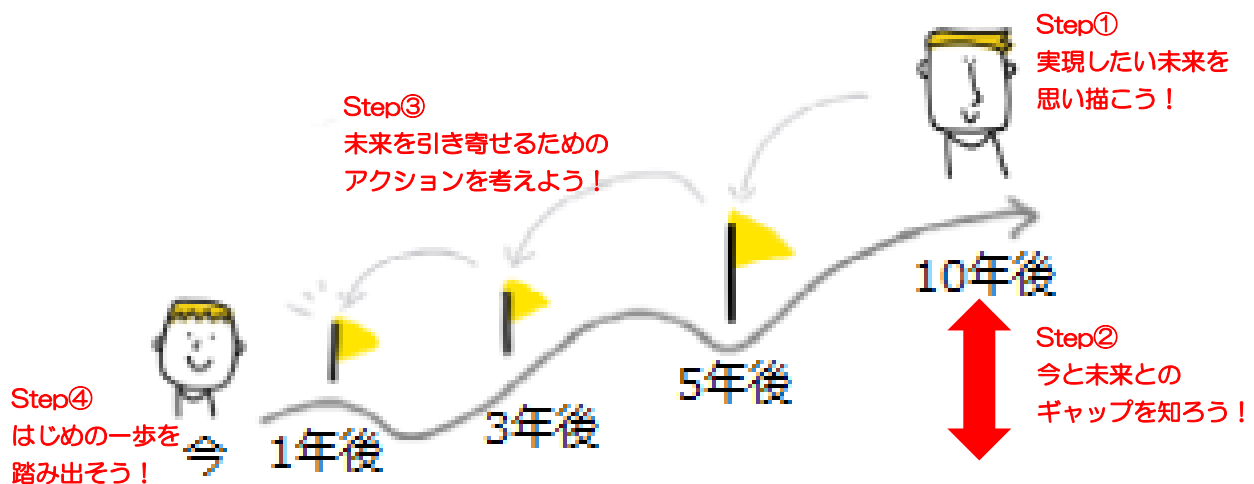


未来のことは誰にも分かりません。

そして、それを描くのは「わたし」です。

そうであれば、現実的な課題はいったん横に置いて、自分が本当に「こうありたい！」と想い願うものをイメージしたほうが、明るく楽しい未来が描けます。未来が広がれば、「無いならつくればいい」「とりあえずやってみよう」という前向きなアクションが生まれてくるかもしれません。

第2章から第3章では、ミライ会議のプロセスとも重ね合わせながら、この「未来からの逆算」の考え方を紹介しています。これを参考にしながら、皆さんもぜひご自身に当てはめて、未来についてじっくり考えてみましょう。



【考えるときのポイント】

「誰もが安心していきいきとくらせるまち」。

誰もが「そうだよね」と思える「理想のまちの姿」ですよね。スマートな言葉でまとめればそうなるのかもしれませんが、果たして、そのまちにはどんな人がいて、くらす人たちがどんな意識や行動をしていて、どんなくらしをしているのでしょうか？

理想のくらしの姿を実現するためには、くらす人たちの意識・行動がどうなっていてほしいか。

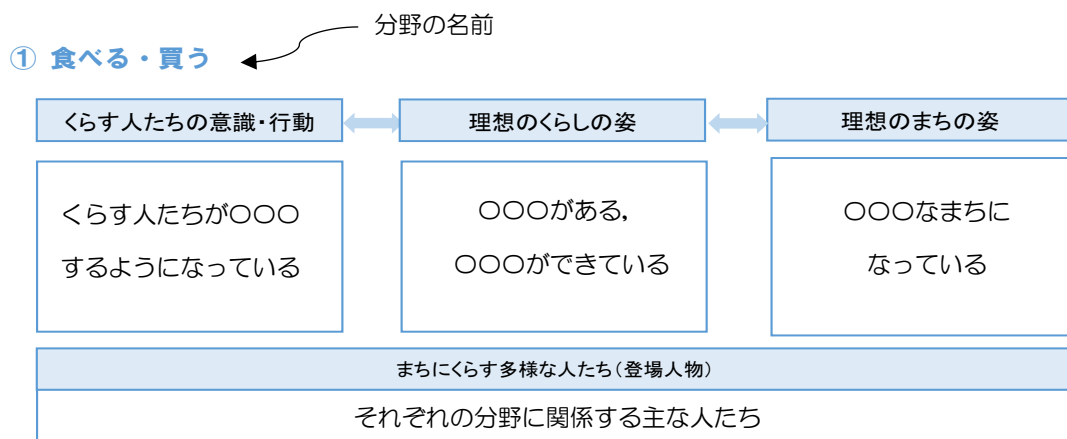
（くらす人たちの意識・行動が変われば、どんなくらしができているか。）

理想のくらしの姿を実現するためには、どんなまちになっていてほしいか。

（理想のまちでは、どんなくらしができているか。）

「理想のくらしの姿」をベースに、くらす人たちの意識・行動や、理想のまちの姿をイメージすることで、未来をよりリアルに表現することができます。

表にしてみると、以下のようなイメージです。



いかがでしょう？

次の第3章では、実現したい未来を引き寄せるためのアクションを考えていきます。

行動を起こすには拠りどころになるものがが必要です。それを見つけるのがこの第2章。

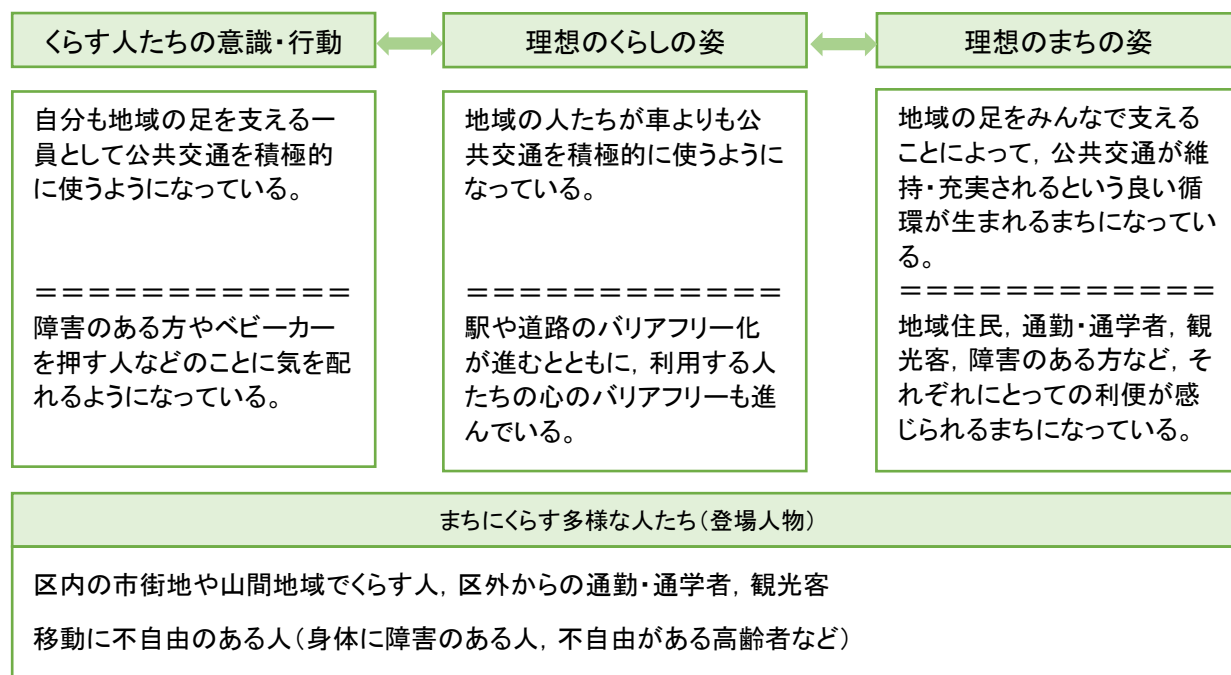
あなたにとっての理想の「〇〇〇」は何ですか？

【ミライ会議等でやってきたこと】

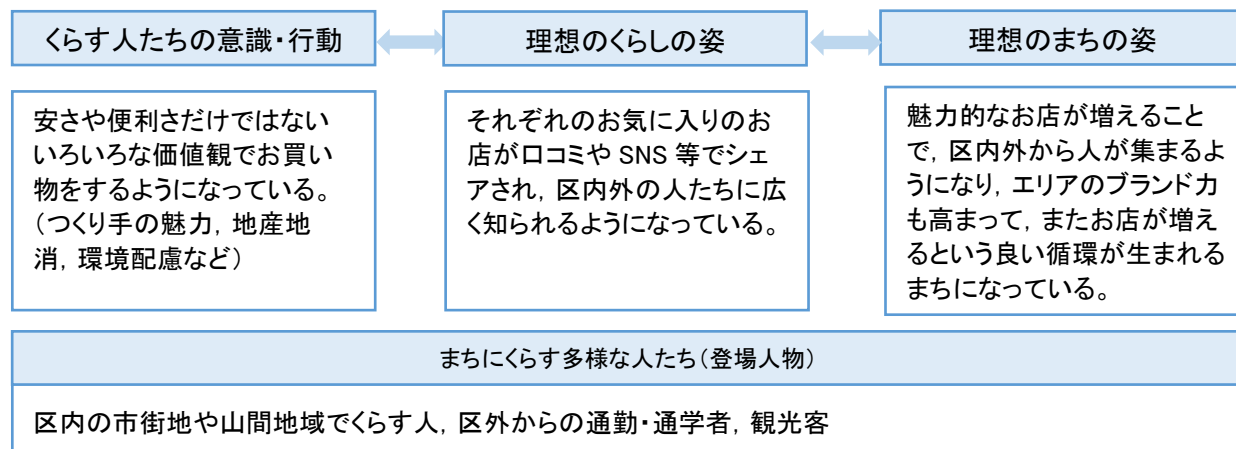
ミライ会議でも、「わたし」を主語にしながら、「理想のくらしの姿」を描くことから始めていきました。じっくり話し合っていく中で見えてきた、イメージの数々。

これを9つの生活・暮らし目線での分野に分類し、代表的な例として挙げたのが、次の表です。

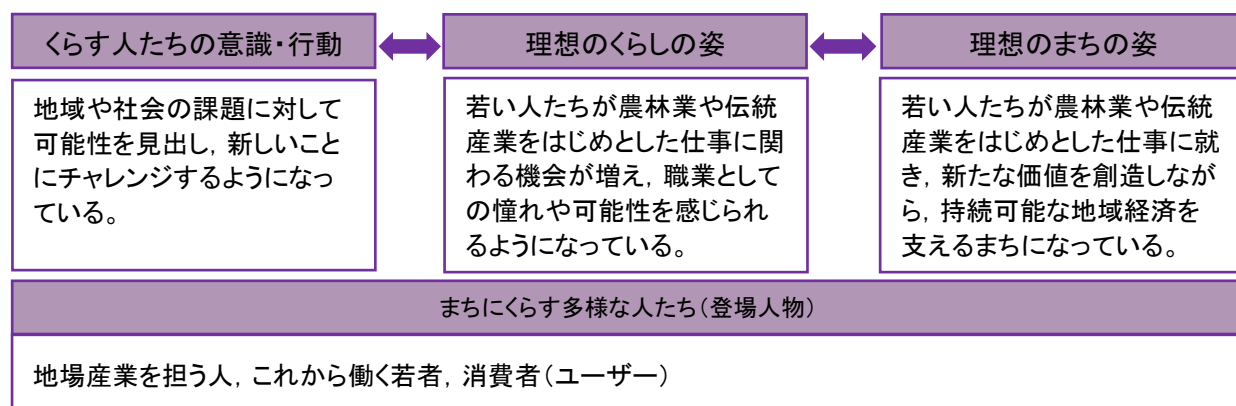
① 移動する（観光）



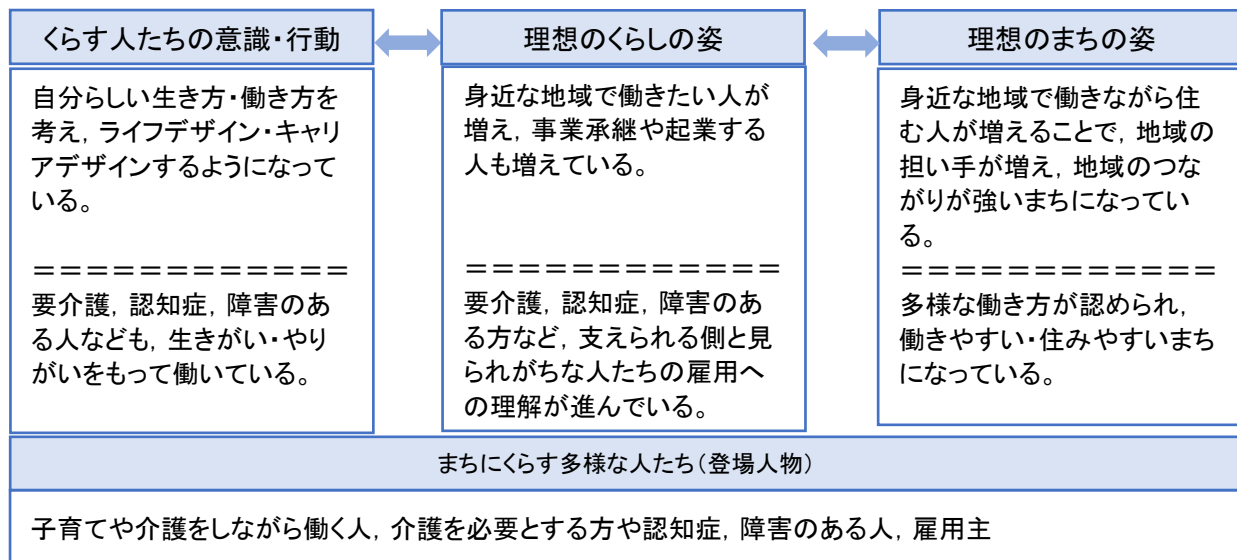
② 食べる・買う



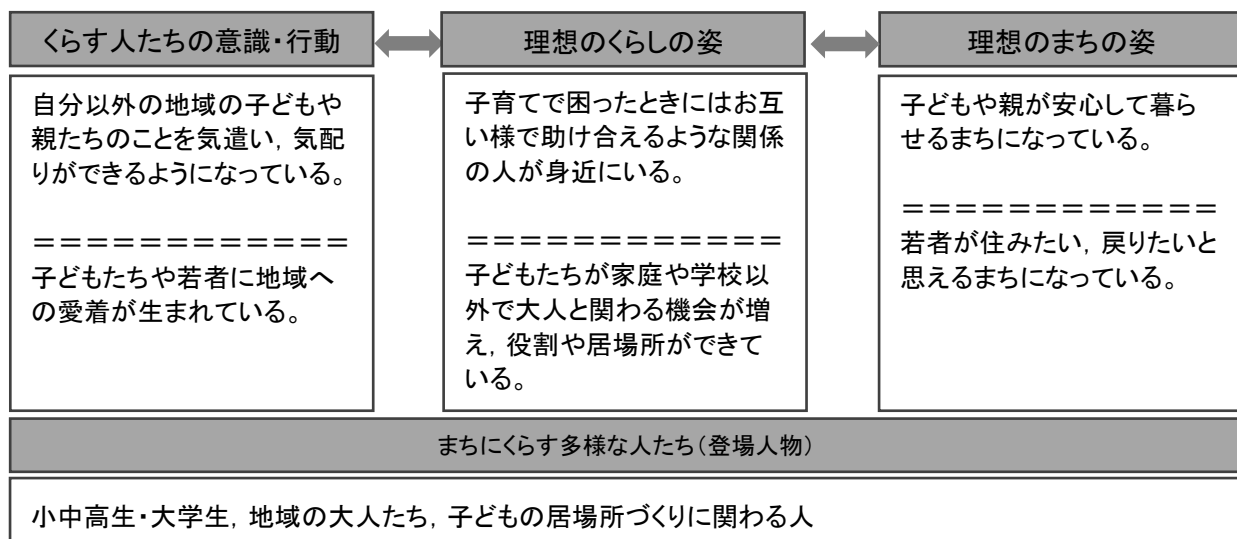
③ 稼ぐ・商う



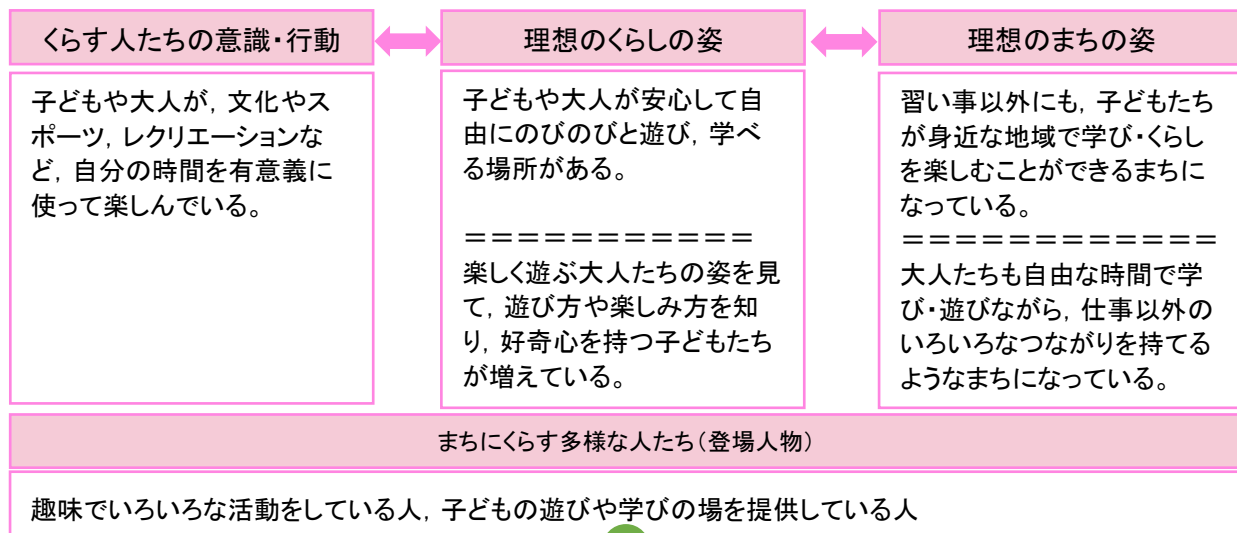
④ はたらく



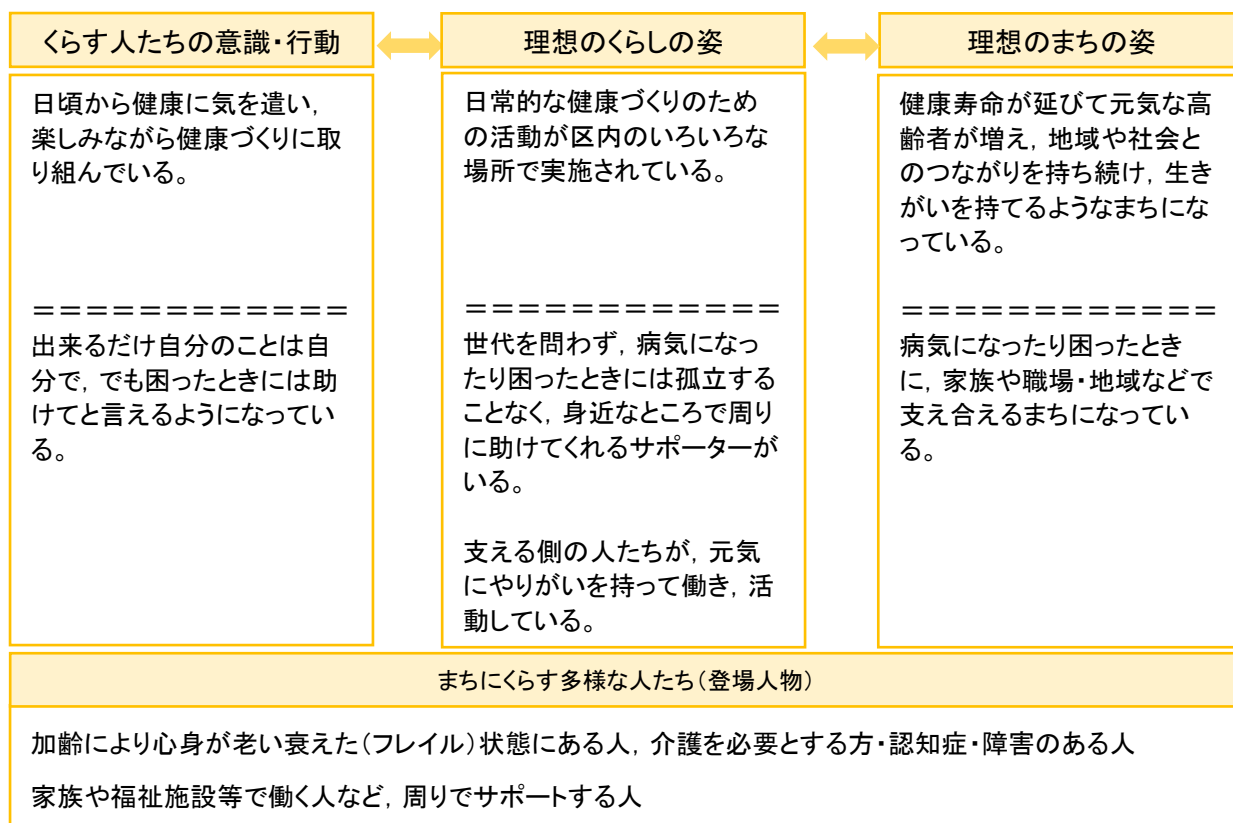
⑤ 育つ・育てる



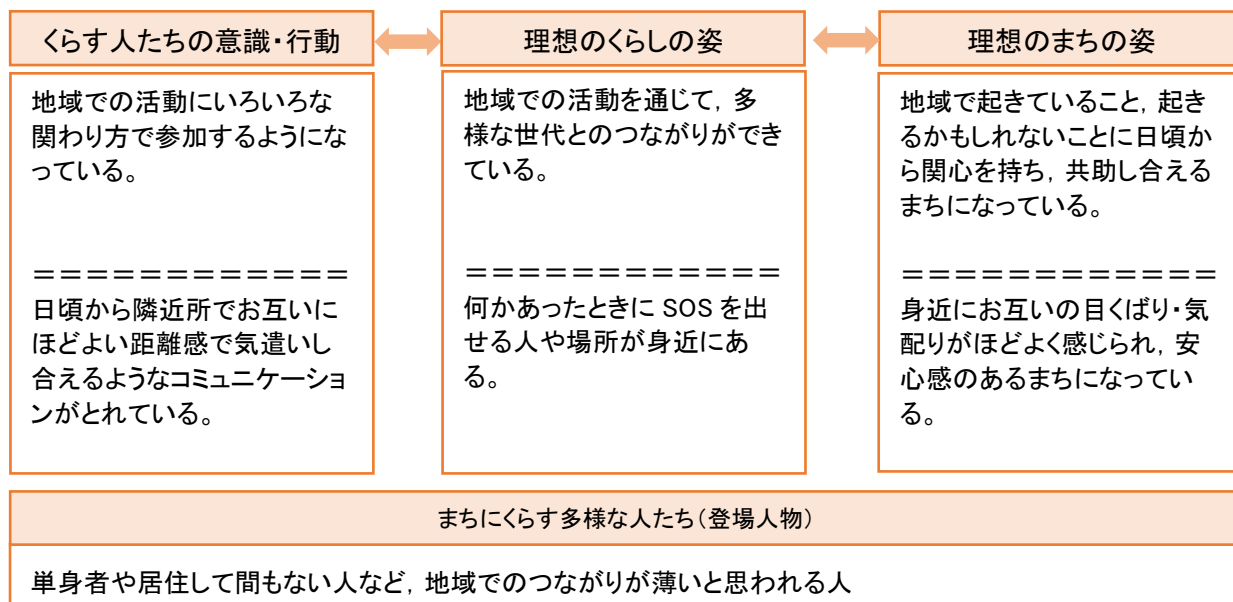
⑥ 学ぶ・遊ぶ・楽しむ



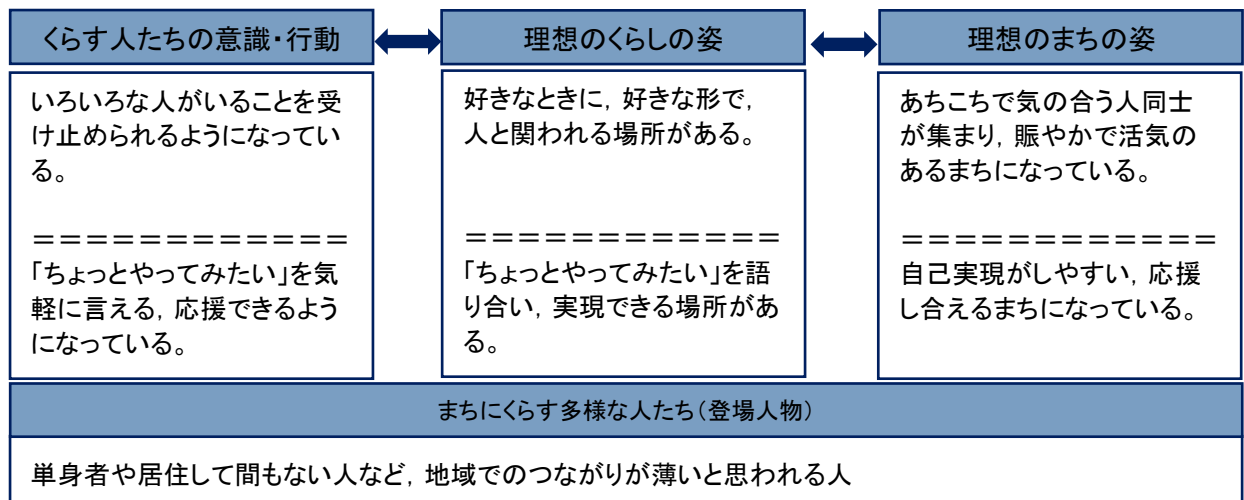
⑦ 健康にくらす



⑧ 身を守る・支え合う



⑨ つながる・交わる・集う



ミライ会議等を通じて見えてきたもの

このようにミライ会議等で語られてきた、たくさんの実現したい未来のイメージ。

これらを見渡したときに、いずれの分野にも共通しそうな、わたしたちがこれからのくらしの中で大切にしたいことが見えてきました。

一人ひとりが目指したいものは違っていても、こういった軸になる考え方や姿勢は、ぜひ共有して持っておきたいものです。

あなたも、家族や仲間・地域の人たちと話し合いながら、それぞれが持つ実現したい未来のイメージを分かち合い、そこから見えてくる大切にしたい考え方や姿勢をあなた自身の言葉で表現してみてください。

わたしたちがこれからのくらしの中で大切にしたいこと

「多様性」を力に変えていく

一人ひとりが自分以外のことに関心を持ち、多様な個性や価値観の違いを互いに尊重しながら、その多様性をエネルギーに変えていく。

「暮らしにくさ」を伸びしろにする

暮らしの中の「不満」や「不便さ」を残しながらも、それを楽しみながら、みんなで解決していく。

「お互いさま」で支え合っていく

人と人がゆるやかにつながって、ほどよく甘えたりお節介し合いながら、日々の困りごとを解決していく。

「やってみよう」を応援する、チャレンジする

一人ひとりの「やってみたい」や「地域・社会のためにやってみよう」という行動を、互いに支え合いながら積極的にチャレンジしていく。

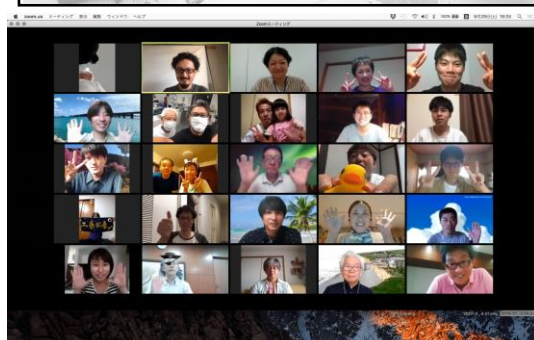
フーグ

第1章

第2章

第3章

編集後記



第3章 未来の実現に向けたアクションを起こす

「アクション」を考える方法

目指したい未来が描けたら、次はいよいよ、どのようなアクションを起こしていくかを考えていきます。どんなことをやってみようかといういろいろ想像するだけで、ワクワクしてきますよね。

アクションを考える手順は、以下のとおりです。ひとりで考えるだけでなく、身近な人と話をしながら考えるのもよいですね。

(1) 実現したい未来を思い描こう

イメージは漠然としていても構いません。その中でも特にこだわりたいことがあれば、「なぜ自分はそれを実現したいのか」を深く掘り下げていきましょう。

(2) 今の暮らしと理想とのギャップを考えよう

今は実現されていないからこそ、実現したいと感じておられると思います。しかし、できていないのには理由や背景があります。それが何なのかを考えてみましょう。

(3) 未来を引き寄せるためのアクションを考えよう

理想と現実とのギャップを乗り越え、実現したい未来に近付くために、わたしならどんなアクションをしたい・できるかを考えてみましょう。

(4) はじめの一步を踏み出してみよう

いきなり大きなことに挑戦するのではなく、まず、未来を引き寄せるのに少しでも効果がありそうで、すぐにでもできそうなことから、はじめの一步を踏み出してみましょう。そこから次につながるきっかけやヒントが見つかるかも。

38ページに、上記の手順をまとめたワークシートを付けていますので、あなたも、これを活用しながら自分なりのアクションを考えてみましょう。

【考えるときのポイント】

「アクション」と聞くと、いわゆる何らかの「市民活動」のようなものをイメージするかもしれませんが、アクションの形はいろいろあります。

自分自身の日々のくらし方や、ちょっとした行動を変えてみるといったこともその一つ。自分にできることを一人ひとりがやることで、変わっていくこともあります。

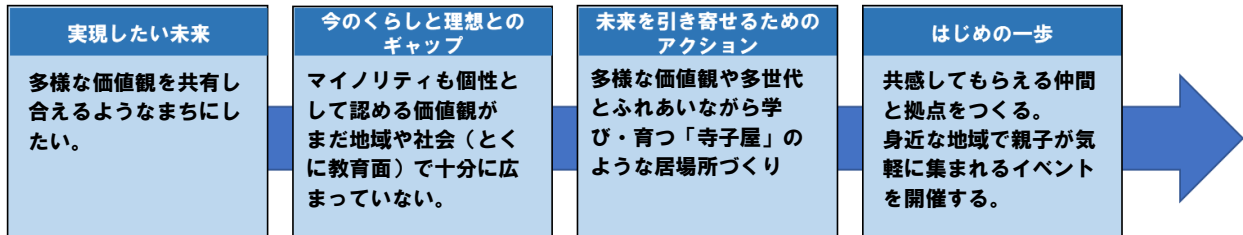
大事なのは、やることの大きさなどではなく、それをやることで、実現したい未来に近付けられるかどうかです。あなたも「自分にできる」アクションを見つけて、「まずやってみる」という気持ちで、行動に移してみましょう。

また、本章で紹介したアクションを考える手順は、（１）から順番に進めることを想定してはいますが、途中から始めたり戻ったりするのもOKです。何か行動したり、話を聞いたりしているうちに、実現したい未来のイメージが膨らんでいくかもしれません。

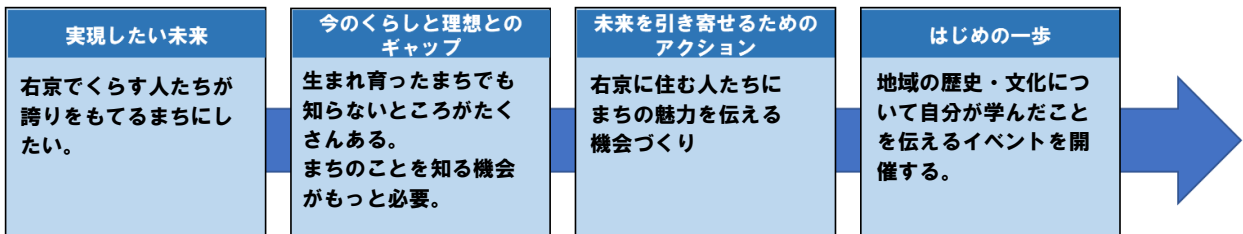
【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議でも、38ページのワークシートを活用しながら、実現したい未来から逆算してはじめる一歩まで、一人ひとりじっくりと考えていきました。ここではその中のいくつかの例を紹介しています。

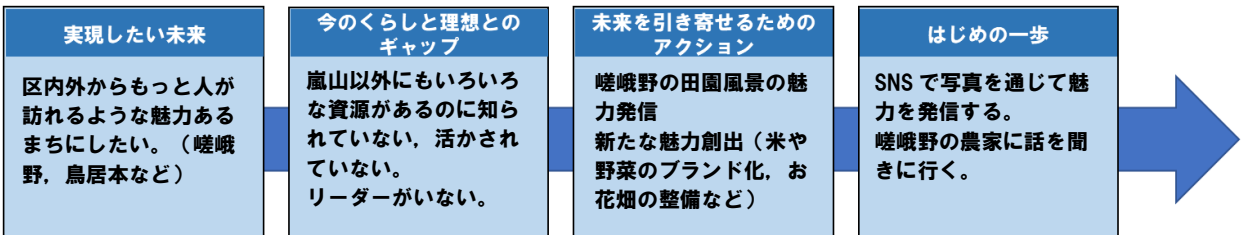
分野 育つ・育てる



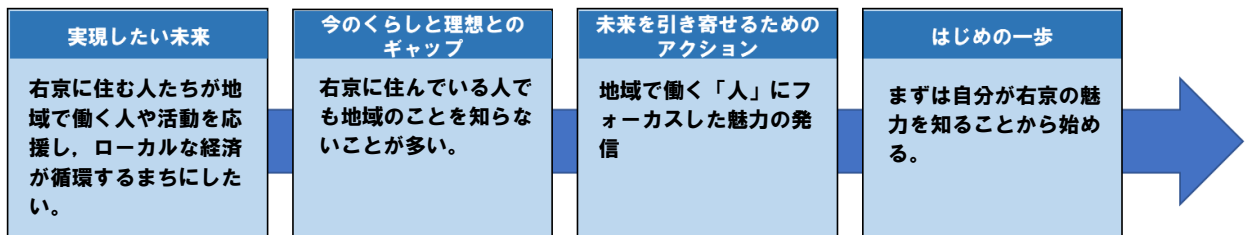
分野 学ぶ・遊ぶ・楽しむ



分野 移動する（観光）



分野 はたらく



わたしが実現したい未来へのワークシート

[illegible]

(3) サポートの仕組み

まちとの関わり方のステップに合わせた，区のサポートの仕組みを記載。

まちづくりを支える仕組みについて，検討中

編集後記ー編集長からのメッセージ（土井先生）

（１）編集体制

（２）右京かがやきミライ会議

（３）インタビュー

（４）計画編集会議

（５）企画編集チーム